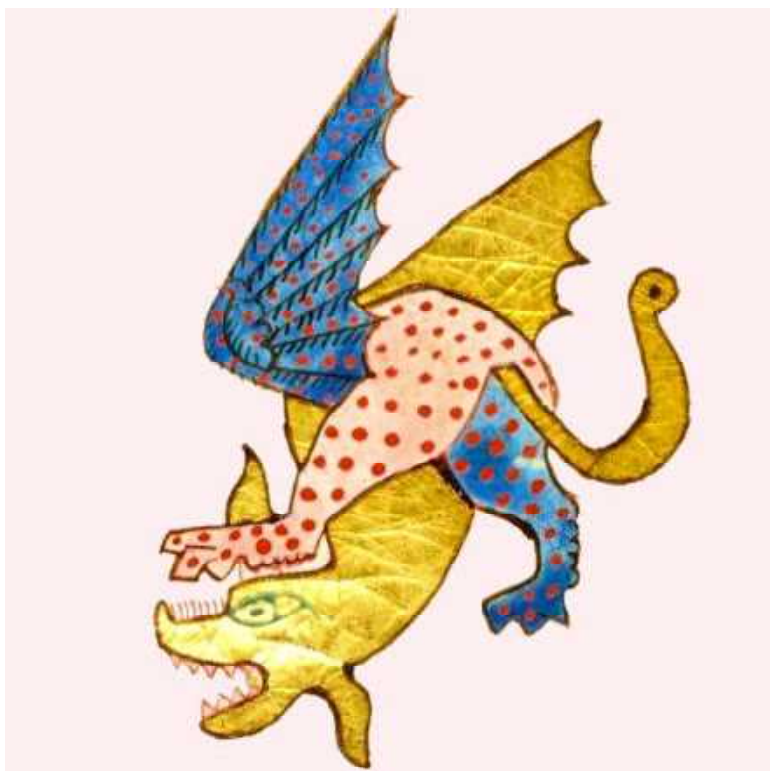


2023年度 平塚教会
親子礼拝説教ガイド
年間聖句 詩27篇4a節



【年間テーマ】 自分の願いを知る

ひとつのことを主に願い／それだけを求めよう

(詩27:4a)

私たちにはたくさんの願いがあります。「自分にとっていちばん大切な願いは何か」と考えると、自分というものや周囲の人との関係が新しく分かってきます。

願いはかなうとは限りません。その葛藤の中で自分の願いは洗練されて正しい願うべきことに変えられて行くでしょう。

教会学校の子どもたちとは、自分の願いを率直に自覚することから始めます。大人もこどもも、自分の願いを洗練された正しい願いに変えて行くことを目指します。

【詩27篇を採り上げた親子礼拝】

5月7日／7月9日 ガイド未作成

8月6日

《聖書理解のために》

詩27篇に軍事用語が頻出するのは戦士ダビデが書いたことになっているからです。ダビデは多くの敵と戦い勝

利をおさめてきましたが、戦時下では苦境に立ったこともしばしばでした。特に自分を苦しめた者は、自分が誠実に仕えた主君であり(サムエル記上第18章以下)、また自分の息子です(サムエル記下第15章以下)。本詩の敵に対する呪い(2、6、11、12)は信仰的とは言えません。しかし詩人は信仰者です。9節で詩人が神の怒りを感じているのは、苦境にあるのが自分の罪に由来することに気付いたからでしょう。罪は神に裁かれますが、それでも詩人は神を尋ね求めようとしています。この信仰が詩人を正しい道に引き戻すことでしょう。

《説教作成に当たって》

一番大切な人と争いになることはしばしばです。大切なだけに小さなことが赦せないからです。その際、神を見上げて関係を回復させたことを証しするか、または関係回復を志していることを伝えると良いでしょう。

9月17日

《聖書理解のために》

本詩は、自分だけが正義と思って敵を呪い、神に助けを求める身勝手な詩です(2、6、11、12節)。ところが身勝手に祈っていても、神は答えてくれません(7)。詩人は自分がきちんと神の御前に立っておらず御利益を願ってい

るだけであることに気付き、聖なる神の御顔を尋ねもとめる決意をします(8)。すると神の答えが聞けないのは自分に問題があることを感じ始めます。自分の信仰生活が、神に隠れられてしまうか、または神の怒りにあうか、どちらかであることが分かったのです(9)。そこで詩人の関心は、神の示す道に従うことに変わりました(11)。

《説教作成にあたって》

自分を正しい道に引き戻してくださる主ときちんと交わりを持ち続けることが、自分にとっての本来の喜びだと知ったのが、年度聖句の4節です。そうした理想的な信仰に届く前には、上で述べたように多くの葛藤があり、色々な体験をします。上の説明を参考に、自分の体験によく合う節を選んでCS生徒に紹介しましょう。

11月5日

《聖書理解と説教作成のために》

2023年度の聖句は「ひとつのことを主に願い／それだけを求めよう(4節a)」です。神に幸せを願う人に神から与えられるのは、その人だけでなく他をも幸せにするものであるはずです。自分の具体的な願いが他に善いものをもたらさないとしたら、自分の魂の奥の本当の願いが自身でまだ分かっていないからでしょう。